



ヒトが新たな情報やスキルを学習し、記憶として定着させる過程に関心があります。モデル化するための基礎的な研究だけでなく、教育実践への応用も試みています。

略歴

大学院生の時には、中学生や高校生、大学生の勉強の仕方や、その勉強方法を選ぶ過程について研究していた。その後、日本工業大学共通教育学群（教職担当）の講師に着任した。着任後は、ヒトの学習や記憶について、実験や計算論モデリングを通じた、より基礎的・理論的な研究に従事している。

所属学会など

日本心理学会、日本教育心理学会、日本認知科学会、Psychonomic Society、Association for Psychological Science、ほか

研究紹介

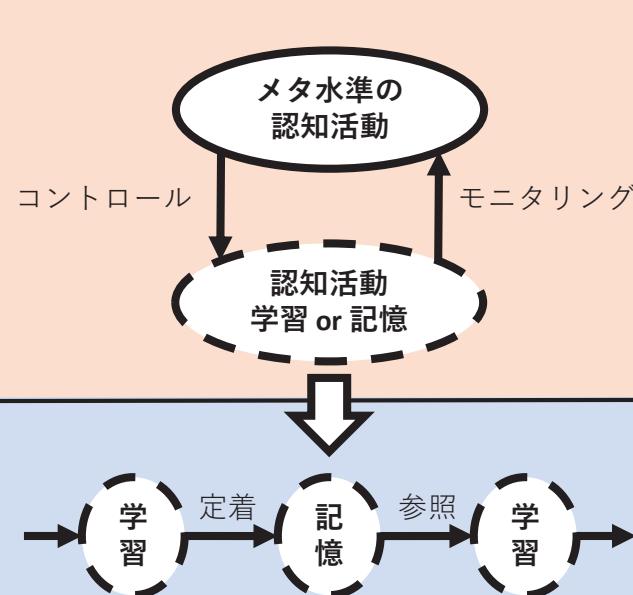
私たちヒトは、学校での勉強のような、意図していないことでも、無意識のうちに学習しています。習慣や癖なども、過去に学習したものかもしれません。

強化学習とその計算モデルという枠組みから、ヒトの学習過程を研究しています。このような新たな学習は、これまでの経験、つまり記憶した情報やスキルに支えられています。

このような、学習から記憶へ、記憶を学習へ、**定着と参照のサイクル**の仕組みを解明しようとしています。

学習から記憶へ
記憶して学習へ

ヒトの学習と記憶に関する研究



学習と記憶を管理する

ヒトは自分で自分のことを客観的に管理する機能があります。これを**メタ認知**といいます。

新たな情報を学習するとき、あるいは自分の記憶を思い出すとき、それが正しいかどうか**モニタリング**します。さらに、モニタリングを受けて、学習や記憶を**コントロール**します。

学習と記憶のサイクルに対して、いかに正確にできるか、どれだけ効率化できるか、その管理を**メタ認知**が行っています。この役割について**計算モデル**から明らかにします。

研究テーマ

- ・ヒトの学習と記憶におけるメタ認知の役割
→ 上述
- ・ヒトの学習と記憶における睡眠の役割
→ 学習した情報の定着や書き換えは睡眠によるので、睡眠も観測データに含めています
- ・使用的な学習方略の選択とその理由
→ なぜその勉強方法を使うのか、その過程のモデル化を試みています

最近の研究業績など

論文（査読付き）

- ・Yamaguchi, T. (2023). *PLoS One*, 18(11), e0293875.
- ・Yamaguchi, T. (2022). *PLoS One*, 17(9), e0274548.

競争的資金（研究代表者）

- ・科研費（若手研究）24K16813
- ・科研費（若手研究）21K13695